

長野便教会 会報

ひとつ拾えば ひとつだけきれいになる

平成26年8月1日（土）第83号

1 桃栗3年、清掃サミット8年

おかげさまで今年で8回目を数える「長野県中学校清掃サミット」が、7月27日（土）に開催されました。佐久穂・篠ノ井東・松代・犀陵・櫻ヶ岡・小布施・木島平の県内7中学校から69名の生徒さんと、12小中学校の25名の先生方にご参加いただきました。そこに「日本を美しくする会」の田中義人会長や福岡便教会の中尾康二先生をはじめ、県内外から多くの皆さんに応援に駆けつけていただき、今年も総勢112名という大きな会となりました。ご参加いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

会場となった犀陵中学校は、今回で通算5回目の会の開催となり、黙々と取り組む生徒さんと熱心な先生方の様子は、これまで度々会報でお伝えしてきているとおりです。今回も3年生を中心に生徒さん39名と、鳴田校長先生・岡本教頭先生をはじめとする10名の先生方、計49名の皆さんにご参加いただきました。前々から会場の打ち合わせや前日準備はもちろん、夏休み前最後の日曜日で、大会前の部活動もあったのに、時間や場所もこちらの日程を考慮して調整していただきまして、本当にお世話になりました。心より御礼申し上げます。

人の心をおだやかにするものは…

犀陵中学校教諭・小松 隼人

最初「2時間半も掃除する」と聞き、そこまで長時間集中してできるのか、不安な気持ちでした。しかし、実際に掃除をすすめてみると、充実感であつという間でした。素手で掃除をやる意味についても学びました。目で見て判断するだけではまだ足りず、手でさわってみてわからることがたくさんあると知りました。一見、きれいに見えても、タオルでふいてみると黒くなり、床を洗剤で磨いてみると泡は黒ずんでいたりと、実際にふれる掃除に取り組んでみることで、初めてわかることが、発見できることを学べました。

掃除後のトイレの空気は、換気しただけではならないような、すがすがしい空気で満ちていました。ある生徒が「真剣になるから静かになる」と感想を述べていましたが、その通りと思いました。集中の成果か、2時間半、無言清掃が続きました。

日本を美しくする会の田中会長さんの「人は環境を創ることができる」という言葉は、まさにその通りだと感じました。以前「ブローケン・ウインドウの法則」という言葉を聞いたことがあります。教室環境の小さな乱れから、全体の大きな乱れにつながってしまうというものでした。この言葉と今日のお話を聞きして、人の心をおだやかにするものは、人の手によって環境を整え、「美しくする」という人の行為であることを学びました。今日の掃除でも、真剣に取り組んでトイレがきれいになっていく充実感、余計なことは考えずに黙々と取り組むことで自分自身と向き合えること、磨き上げたトイレの環境がすがすがしくなっていったことを実感しました。このような取り組みが、日本国内のみならず、全世界へと発信されることに大きな意義を感じました。

今日一日を通して、清掃について改めて考えることができました。ここまで清掃にじっくり取り組み、向き合ったのは初めてかもしれません。各校の取り組みも、工夫を活かしたものが多く勉強になりました。貴重な体験をありがとうございました。

田中会長の「私たちはなぜ日本語が話せるのでしょうか」という問い合わせから始まったお話。「それは日本に生まれたからですね。その人のまわりにどんな環境があるかで、それは決まつてくる。つまり、環境が人を創るんですね。だから、環境は大切ですね。では、その環境は誰が創るのでしょう。その環境は、人が創るんですね。」お話はさらに続きます。「掃除をすると、

お掃除を終えて、清々しい顔が勢ぞろい！



第8回長野県中学校清掃サミット

長野市立犀陵中学校にて、112名が参加！

環境がよくなる。掃除とは、その場所がもともともっているよさを引き出してやること…」そう、Education（教育）の語源は「引き出す」ということ。私たち教師の仕事は、その子がもっているよさを引き出すこと。では、どうすれば引き出せるのか。頭の中や机の上で考えることも大事だけれど、まずは実際にやってみる、向き合ってみる。すべては、そこから始まるように思います。さすが、子どもたちは吸収力抜群です。一日の中で敏感に感じ、反応しています。

○「人間は環境に大きく左右され、その環境を人間は変えることができる」という田中会長さんのお話が心に残りました。まず役員の中で清掃の輪をつくり、そしてそれを学年へ広げ、環境をつくつていけば、自然に後輩たちの清掃への取り組みもよくなると思いました。やはり、後輩は先輩の姿を見て育つと思うので、上にいる人たちがどのように行動するかが大事だと思いました。「自分がちゃんとしなければ」という自覚をもち、これからも日々、熱心に清掃に取り組みたいです。（佐久穂中・3年女子）

○午前中、私はトイレの中の水道のところをやり、初めてあんなに長い時間ひとつのことに向き合いました。終わったあとにきれいにできた達成感と、まだやりたいとか楽しいとか、清掃するといいことがいっぱいだと実感しました。午後は、他校の清掃の様子もわかったので、今後の清掃にいかしていきたいです。そして、後輩や今日来ていない人たちに、清掃の楽しさを広めていきたいです。（佐久穂中・3年女子）

○掃除の時間は、今までサボっているときがあったけれど、今日一日をとおして、掃除が好きになってしまったので、これからは頑張ってやっていきたいと思います。（松代中・3年男子）

○午後の意見交換で話をしてみると、どの学校も課題はほとんど同じだということがわかった。でもそれは、その課題を克服すれば、他の学校の課題を克服することにもつながるから、まずは自分からそういう態度をとってみようと思った。（松代中・2年男子）

○ほぼ全員知らない人なので緊張したけど、たくさんの人の意見が聞けたり、自分の意見や質問をたくさんできたりしてよかったです。自分の学校に他校の企画ややり方を工夫しながら取り入れたいです。清掃を大切にしているたくさんの人たちはやっぱり心がきれいだと思いました。（篠ノ井東中・3年女子）

○各学校の清掃を引っ張っている生徒のみんなと一緒に掃除をして、一緒に話し合いができるよかったです。たくさんの人とトイレ掃除をして、やる前とやった後では、トイレに入ったときの気持ちよさが全く違って、「こんなに違うんだあ～」と思った。田中会長さんの「清掃をすることは、自分を磨くこと」がとても心に響きました。（小布施中・3年男子）

○各校の課題を考えていくうちに、無言清掃をする意味や必要性とは何だろう…ということも話しました。自分と向き合う、掃除の大切さと向き合えば、自然と無言清掃になるのではないか、という意見が出ました。これらの取り組みや考えを本校に持ち帰り、また集会等をひらいて深めていきたいと思います。（木島平中・3年女子）

○いつもなら長く感じる清掃が、とっても短く感じました。終わった後の達成感は、今まで感じしたことのないくらいすごいです。本当に今回やってよかったです。トイレ掃除はすごいです！あと、犀陵では無言清掃についてもう一度考える必要があるなと思いました。みんなで考えた上で、ひとつにまとめて、そのひとつの目標に向けて取り組めばいいなあと思いました。（犀陵中・3年女子）

○実際に掃除をしてみて、掃除をすることの楽しさ、大変さ、奥深さ…たくさんことを知れた。また、意見交換することで、今まで気がつかなかつたこと、知らなかつたことを教えてもらい、掃除で私たちがつながっている感じもしました。お互いの学校の取り組みを、自分の学校でも活かしたい。そのためにもまず、自分自身をさらによくしたい。（犀陵中・3年女子）

2 お知らせ

○小布施掃除に学ぶ会・月例会→毎月第2日曜朝6時～8時30分（5:45にはご集合ください）

8月は2日（第1日曜に変更になっています）、小布施中学校。9月は13日、栗ガ丘小学校。

○日本一気持ちのいいスクール大作戦→平成27年9月19日（土）8:30松本市アルwin（J1松本山雅ホーリー・ランド）

兵庫便教会の木田重果先生から、清掃サミット前日に激励メールが届いた。それだけでも嬉しいのに、当夜「お疲れ様でした」と労いメールが届いた。離れていても繋がっている。感謝！

〒383-0021 中野市西2-9-2 長野便教会事務局・太田 智明（木島平中学校教諭）

携帯電話・090-2238-2934 Eメール・otato2005@yahoo.co.jp

小布施掃除に学ぶ会HP・<http://obuse-souji.com/>